

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	joyとびっこらぶ		公表日		2026年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・出席人数により活動内容を考慮している。 ・2, 3グループに分け活動をする。 ・個室がないため、パーティションを用いる等、工夫している。	・送迎時に、保護者が入室することによってさらに密になり過ぎないように、改善したい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・基準に基づいた職員配置である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・限られた空間の中で、工夫している。 ・個人に合わせた支援方法を工夫している。	・収納スペースが限られているため、教材の管理が課題である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	・個室はない。 ・パーティションや机を用いて、個人の空間が守られるように工夫している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員間で共有し、改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・月1回、職員勉強会を実施している。 ・外部研修の機会を確保している。	・職員体制によっては、外部研修へ出られないこともある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ホームページに公表している。 ・公表していることを、保護者懇談会の中で案内している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・保護者には児童調査票にニーズを記入していただき、さらに面談で詳細を確認している。	・記入いただいてから、計画書の作成、面談までに時間を要する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・常勤職員が全員参加して、みんなで共有をしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・療育センター等で実施された発達検査の結果を、保護者を通して把握するように努めている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・児童発達支援計画に明記し、支援提供している。	・保護者に伝わるように、より丁寧に面談の中で伝えていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・常勤職員が全員参加して、月案会議において共有をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・より充実させるために、今後も工夫していきたい。 ・児童の発達の変化を捉えるために、あえて同じ活動を繰り返して設定することもある。	・マンネリ化しないように、外部研修や他施設との連携を図っていきたい。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・設定保育と自由遊びの時間の中で、集団と個別を適宜組み合わせている。	・毎回、個別の時間を提供しているわけではない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・日案をもとに打ち合わせし、活動のねらいや個別配慮、職員配置等を確認している。	・非常勤職員とも、より綿密な打ち合わせができるように心掛けたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・全職員が施設の『目標』を理解して支援ができるように丁寧に振り返りを行っている。 ・次回の支援において必要な準備や気を付けることを共有し、記録に残している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・毎日の記録を徹底している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児発管が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・電話で情報共有を行うことや、実際に見学する機会をもち、相互理解を図っている。	・在籍する児童全員に行うことが難しい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・文書を作成し、必要に応じてそれをもとに、直接引継ぎのために面談を行っている。	・在籍する児童全員に行うことが難しい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障がい児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・法人内の児童発達支援センターや、各療育センターと連携を取っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・併行通園施設のため、施設としては設定をしていない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・ペアレントトレーニングの外部研修の案内をしている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約は1, 2名ずつ説明を行い、ご不明な点は質問をしていただけるよう、時間を設定している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			・限られた時間の中で、保護者の記憶に残るように丁寧に伝えることを心掛けたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・保護者懇談会の機会を設けている。	・参加する方、しない方が固定されてしまうことや、設定時間や内容等、見直し改善したい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・こちらから声をかけたり、保護者からご希望があったときに対応している。より気軽に相談していただけるよう、関係づくりを丁寧に行っていきたい。	・より気軽に相談していただけるよう、関係づくりを丁寧に行っていきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・連絡帳に活動の様子を撮ったものを添付して送ることや、毎月の活動の様子を室内に写真で掲示すること、おたよりを配布すること、発信している。	・保護者により安心してご利用いただけるように、発信の頻度や内容を見直し改善したい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・マニュアルは適宜見直す。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・年10回実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・契約時に保護者に直接確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	/	/	・アレルギーについては児童調査票に記入いただくことで把握し、昼食はお弁当持参のために保護者に任せている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・発生時、すぐ作成して共有している。また翌月の職員会議で対応を振り返り、再発防止に努めている。	・施設環境によるものであれば、すぐに修理や改善ができるように努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・研修を行い、適切な対応を確認している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・身体拘束が必要な場合には、児童発達支援計画に記載する。 ・身体拘束を行う場合の説明は、契約書に記載して保護者に説明している。		